

平成29年度 多文化共生地域づくり事業
災害時における外国人への支援講座
～災害時に外国人が直面する課題と支援者が果たす役割～ 報告

鹿児島県内には平成29年度6月末現在で8,364人の外国人が在住しており、年々増加傾向にある。県内に在住する外国人の増加に伴い彼らを取り巻く環境において、日本語の習得や医療、防災など様々な問題が顕在化してきている。

今般、当協会の語学ボランティアや県内に在住の外国人、関係機関等を対象に災害時に外国人が直面する特有の困難の事例等を理解して頂き災害時における外国人支援のあり方について情報共有を図ることを目的とし、講座を実施した。

(日程)

平成29年12月2日(土) 13:30～15:30

(講師)

特定非営利活動法人多文化共生マネージャー全国協議会

監事 志渡澤 祥宏 氏

大久保 雅由 氏

(参加者内訳)

計29名 日本人：8名／在住外国人等：9名

関係機関：12名(語学ボランティア3名含む)

(7カ国・地域：アメリカ・フィリピン・パラグアイ・ベトナム・韓国・台湾・帰国子女)

(講座の様子)



【講座での講師の講義の様子】



【桜島噴火に関するニュースを見ている様子】



【グループワークでの議論の様子】



【グループで話した内容の発表の様子】